

学校関係者評価委員会報告

関西健康科学専門学校
学校関係者評価委員会

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

I 学校関係者評価委員

①学外委員

中村吉朝（中村接骨院院長）

浅尾亮介（株式会社 Next Stage こころ接骨院院長）

坂上算野（上級心理臨床カウンセラー・家族相談士・キャリアコンサルタント）

保居貴美恵（本校卒業生）

②学校関係（事務局）

住田行志（関西健康科学専門学校 校長）

宮崎香織（関西健康科学専門学校 学科長）

日向崇（関西健康科学専門学校 事務局長）

II 学校関係者評価委員会の開催状況

第 7 回委員会 2026 年 5 月 22 日 14 時 30 分から 16 時

（会場 関西健康科学専門学校 301 室 ZOOM）

出席 （学外委員）

中村吉朝、浅尾亮介、坂上算野、保居貴美恵

（学校関係（事務局））

住田行志、宮崎香織、日向崇

III 学校関係者評価・意見事項について

自己点検・評価及び学校評価の概要の説明を行い自己点検評価委員会がまとめた 2025 年度自己点検・評価報告書（点検評価項目）を基に本委員会で確認した内容について意見交換を行った。

学校関係者評価報告書（2025 年度版）

Ⅳ 重点目標

1 重点目標の方針

本校は、建学の精神に基づく「教育理念」および「教育方針」を全職員で共有し、急速に変化する医療・スポーツ業界のニーズに即応した、高度かつ実践的な職業教育の提供に邁進している。学校運営においては、学校法人神戸創志学園の強固なガバナンスと適正な管理統制のもと、中長期的な財務基盤の安定と組織体制の強化を両立させてきた。2025 年度は、専門職育成機関としての社会的責任を全うすべく、教育品質の更なる深化と組織的な運営体制の高度化を重点目標に掲げ、計画的な学校改革を確実に実行（遂行）している。

Ⅴ 学校関係者評価および意見交換について

本委員会において、2025 年度の「自己点検・自己評価報告書」に基づく詳細な概要説明を受け、それに応じた厳正な評価および実効性のある意見交換を実施した。各項目における評価と今後の課題は以下の通りである。

1 教育理念・目的・育成人材像

関西健康科学専門学校が掲げる教育理念と目指すべき育成人材像は、明確に言語化され、学校案内や各種媒体を通じてステークホルダーへ広く周知されている。特に、兵庫県内で唯一となる「夜間課程を併設する柔道整復学科」としての独自性は極めて高く、多様な背景を持つ学生に対して門戸を開いている。地域医療および福祉・スポーツ分野の発展に寄与する有為な人材の育成機関として、その社会的使命と今後の発展可能性について、委員会として高く評価する。

2 学校運営

運営面においては、学校法人神戸創志学園の策定した明確な事業計画に基づき、適正かつ機動的な学校運営が実施されている。単年度の事業報告および財務情報は、公式ウェブサイト上で遅滞なく公表されており、学内での共有に留まらず、社会に対する説明責任と高い透明性を担保している。法令を遵守した組織統制と、時代に即した迅速な意思決定プロセスが機能しており、法人としての運営体制は極めて適正である。

3 教育活動

スポーツ医療柔道整復学科では、「柔道整復師学校養成施設指定規則」の改正・基準に厳格に準拠したカリキュラムを編成している。実臨床やスポーツ現場で即戦力となる専門職人材の育成に向け、業界の最新動向を反映した実技・講義内容の絶え間ない見直しが行われている。また、過去に業界内で問題となった国家試験漏洩事案等の不正とは完全に無関係である健全な教育環境が、厳格な試験管理体制のもとで改めて実証された。今後は、大学等の高等教育機関、医療機関、企業、および業界団体との連携（産学連携）をさらに緊密にし、より高度な臨床実習環境の構築や共同研究等の先進的な取り組みへの展開が期待される。

4 学生支援

経済的・環境的な課題を抱える学生へのサポート体制は、多角的に構築されている。高等教育の修学支援新制度（無償化）の対象校としての適正な運用に加え、遠隔地からの不利益を解消するための独自の給付型支援制度が効果的に機能している。さらに、社会人学生比率の高い夜間課程においては、専門実践教育訓練給付金を活用した経済的負担の軽減策が継続的に提供されており、学習継続を強力に支えている。多様化する学生の個別の課題（メンタルヘルス、キャリア形成等）に対しても柔軟なカウンセリング体制が敷かれており、今後もこの包括的な支援体制の維持・強化を要望する。

5 教育環境

施設・設備環境は、関係法令の基準を完全に満たした上で、最新の医療機器や実習用具の導入など、時代に即した計画的投資が継続されている。2025年度は導入済みの学習支援アプリケーションの活用をさらに定着させ、予習・復習や国試対策の進捗管理が効率化された。さらに、前年度からの課題であった夜間部を中心としたオンライン授業（遠隔教育）の導入可能性については、実技教育の質を担保しつつ、通信環境の整備やハイブリッド型授業のシミュレーションが進められており、学びのアクセシビリティ向上に向けた具体的な一歩として評価できる。今後のさらなる学習環境の最適化に期待したい。

6 学生募集および受け入れ体制

募集広報活動においては、デザインおよび掲載内容を全面的に刷新した新しいパンフレットの制作に加え、Webマーケティング（SNSや進学情報サイト）を効果的に組み合わせた多角的なクロスメディア戦略が展開されている。特に、近年需要が高まっている女子学生へのアプローチや、柔道整復師の新しいキャリアパス（美容・スポーツ領域等）の提示に注力しており、建学の精神に裏打ちされた本校の魅力が的確に発信されている。アドミッション・ポリシーに沿った意欲ある学生の安定的な確保に向け、今後も精度の高い広報展開を推奨する。

7 財務

財務管理体制は、学校法人神戸創志学園の一元的な統括管理のもとで厳格に運用されており、専門学校単体としての予算執行状況および財務健全性も明瞭に開示されている。収支バランスは適正にコントロールされており、教育投資の財源も十分に確保されていることから、経営基盤における特段の懸念点や課題は認められない。

8 法令遵守（コンプライアンス）

学校教育法、私立学校法、および柔道整復師法をはじめとする関係諸法令に基づき、極めて適正かつ厳格なコンプライアンス経営が実践されている。学内におけるハラスメント防止対策や個人情報保護の徹底など、リスク管理体制も十分に機能しており、本年度の監査・評価において指摘すべき問題点は一切存在しない。今後もこの高い倫理観を維持し、安定的な学校運営を継続されることを強く望む。

VI 学校関係者評価委員会による総括

1 総括

総括として、関西健康科学専門学校は、学校法人神戸創志学園の安定した経営基盤とガバナンスのもと、極めて健全かつ模範的な学校運営を行っている。兵庫県内唯一の柔道整復学科（夜間部併設）としての存在意義は極めて大きく、地域医療およびスポーツ振興における人材供給源として確固たる地位を築いている。

特筆すべき成果として、2025 年度（令和 7 年度）卒業生における「柔道整復師国家試験」の合格率は、徹底した個別指導と独自の国試対策カリキュラムの奏功により、全国平均を大きく上回る高い水準を堅持した。この優れた教育成果が、近年の厳しい 18 歳人口減少局面における学生募集の安定的成果（志願者・入学者数の確保）に直結していることは明白であり、高く評価できる。

関西健康科学専門学校が今後も、高い職業意識を持った医療・スポーツのプロフェッショナルを育成する中核的教育機関として、さらなる教育の質の向上、DX（教育のデジタル化）の推進、そして時代を先見した計画的な学校運営を展開していくことを、当委員会として確信し、引き続き強く期待するものである。

以上